



学ぶことは自由になること

校長 赤松 弘一

7月に全校の皆さんに実施した、本校独自の生活アンケートの結果を集計しました。その中では、「自分の役割を果たそう」「周りの人が困っていたら助けよう」という協働する意識が高いことがわかりました。一方で、「自分のことが好き」、「私にはよいところがある」、「誰かの役に立っている」という気持ち、自己肯定感や自己有用感が低いという結果が得られました。自己肯定感が低いのは他国に比べて日本の若者に顕著な特徴です。前向きに自分の人生を切り拓いていく上で、まず自分を肯定することが大切です。本校では授業や学校行事など様々な機会を通じて、自己肯定感を高めるために、すべての先生方が取組を始めています。

皆さんは同じように授業を受けていても、興味ある分野はそれぞれ異なります。将来みんなが同じ仕事をしているはずありませんね。受けた授業は同じでもその中で関心や疑問を持つ部分はみんな違い、深めていこうとする対象も異なるのです。また、それら興味を持ったことを深める場は教室だけではないでしょう。むしろそれ以外の場で自ら探究したり、体験したりして独自の学びが深まるのです。教室だけで授業は完結しないのですね。一方教室は他者と様々な考えをぶつけ合い、自分の考えを、他者を通じて見つめる場として重要です。いい教室とは、どんな意見も考えも安心して発表できる場所です。みんなと違う意見だからと排除されたり、普通じゃないと笑われたりすると、意見を言えなくなります。何を言っても受け容れてくれる、そして真面目に様々な反応を返してくれる。そんな教室であれば、他者の気付きにハッとしたり、自分の意見をさらに深めたり修正したり、つまり思考を深めることができます。みんながどんな反応をするか、他の人はどんな考えを持っているか、意見を交流することにワクワクする、そんな教室での学習は楽しいはずです。

勉強するから、
何をしたいか分かる。
勉強しないから、
何をしたいか分からない。
北野 たけし

勉強が苦しく感じるのは単に知識を頭に詰め込むことに偏っているからです。授業は知識の量を増やすことよりも、考えたり、調べたり、表現する方法（思考と活用）を身につけるための場であるべきです。そのようにして学ぶことで、できることが増えます。新しいことを知ることができます。チャレンジしようという気持ちが生まれます。正しい考え方や正しい知識を見極めることで、思い込みや偏見や差別にとらわれなくなります。つまり知的に自由になれるのです。その結果、自分を豊かにでき、自分を好きになれるでしょう。

学ぶことで見えるものが変わります（知の地平線が広がる）。物の捉え方・考え方が変わります（様々な道が見つかる）。そして自分も変わっていくのです。地平線に向かって歩き続けても、地平線はさらに遠くになりたどり着きませんが、その過程で新たな景色や人に出会います。学ぶことも同じではないでしょうか。

様々な不安や困難の中で2学期が始まりましたが、互いに協働できるという皆さんの長所を活かし、自由を求めて共に学びを深めていきましょう。